機関投資家様向け会社説明会を実施

２０１０年１１月２６日（金）、機関投資家向け合同会社説明会を開催致いたしました。
当日は機関投資家様２３社３３名にお越し頂き、社長の関山から「事業の状況と今後の展望」と題し、約３０分間で、中間期の状況と通期の見通し、今後の展望などについて説明を行ないました。

投資家様からは、数多くのご質問を頂き、個別対応のご要望を頂くなど、反響の大きさが伺えました。

今後とも、定期的にこのような機会を設けていきたいと思います。

2011年3月期第2四半期決算説明会
事業の状況と今後の展望

2010年11月26日

鬼怒川ゴム工業株式会社

http://www.kinugawa-rubber.co.jp/

資料の内容

Ⅰ．2010年度上期決算及び通期の見通し

・上期決算の状況

・通期の見通し

Ⅱ．当社グループの取組み

Ⅲ．今後に向けて

Ⅰ．2010年度上期決算及び通期の見通し

・上期決算の状況

・通期の見通し

Ⅱ．当社グループの取組み

Ⅲ．今後に向けて

Ⅰ－1.　2010年度　上期業績；営業利益・経常利益で最高益更新

操業度の増加分をロスなくフルに利益反映
（拠点間・間接応援の実施で非正規社員の採用抑止）

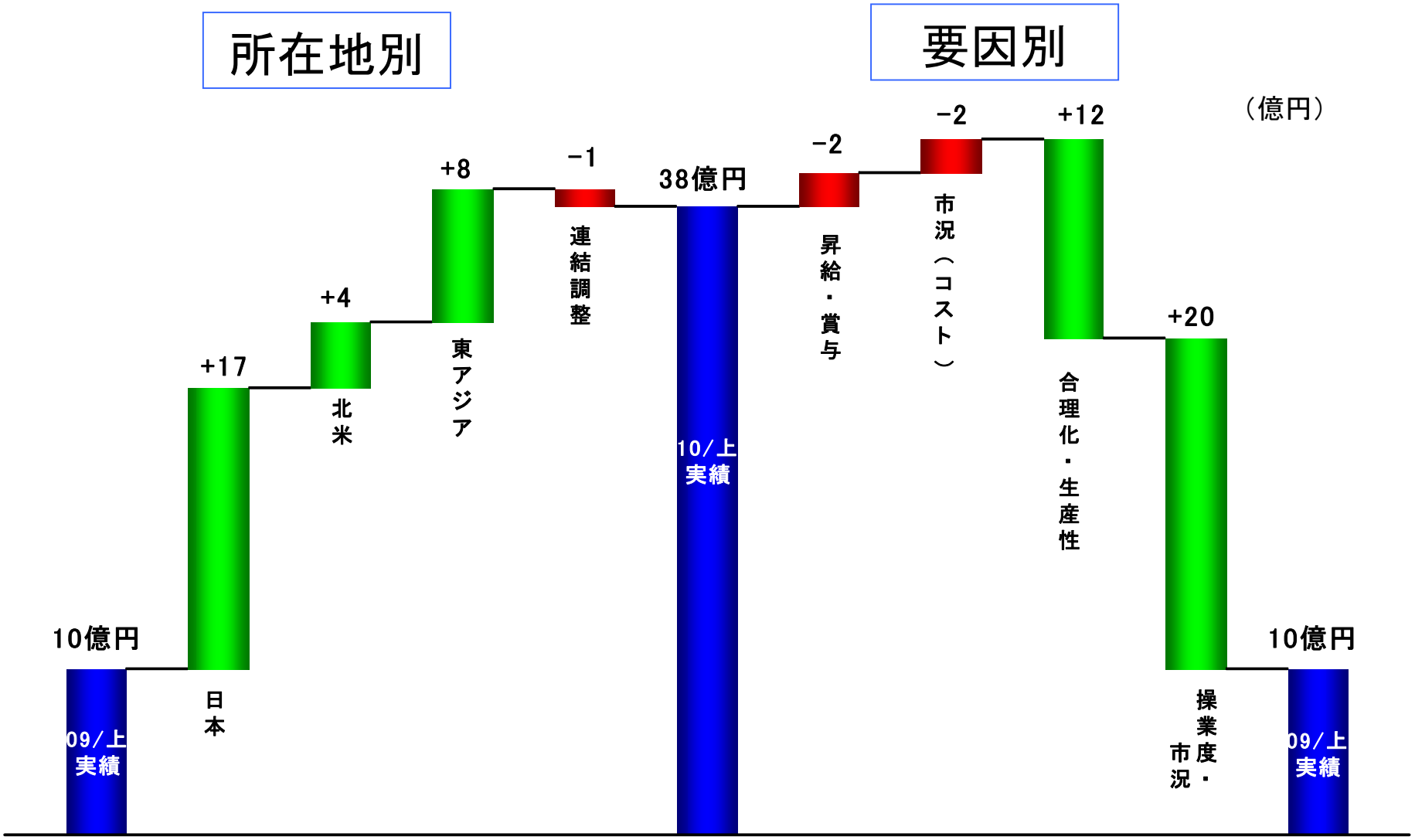
（単位：百万円未満切捨て）

	2009年度 上期実績 （2009/4～9）		2010年度 上期実績 （2010/4～9）		増減	
売 上 高	22,682	100%	32,724	100%	10,042	144.3%
営業利益	959	4.2%	3,854	11.8%	2,895	401.9%
経常利益	1,076	4.7%	3,870	11.8%	2,794	359.7%
当期純利益	712	3.1%	2,295	7.0%	1,583	322.3%
1株当たり 当期純利益	10.61円		34.19円		23.58円	

KINUGAWA

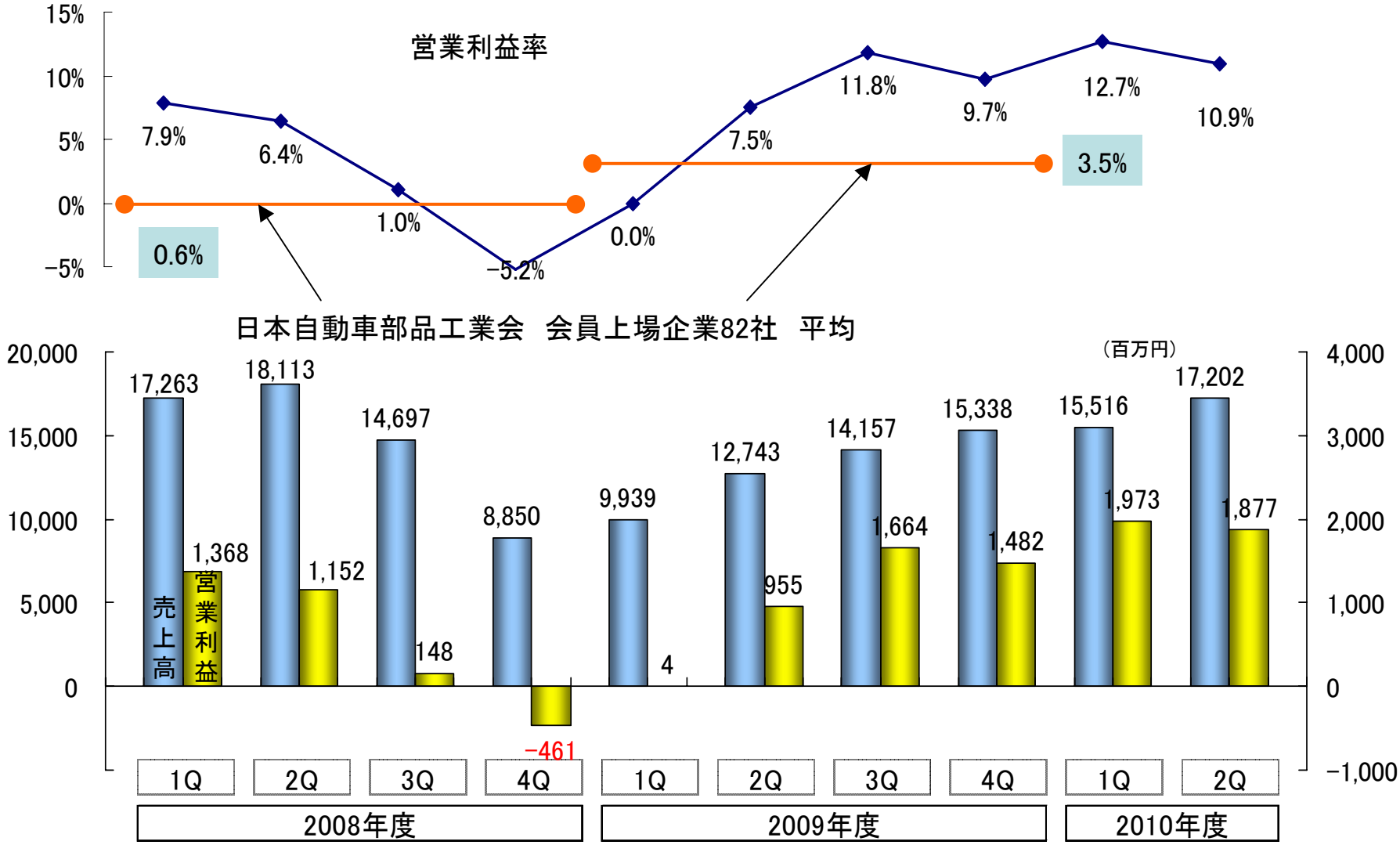
Ⅰ－2.　前年同期　営業利益比較

各拠点の改善事例を国内外へ素早くヨコ展開することで全ての拠点で増益を実現



Ⅰ－3.　四半期毎 売上・経常利益推移（2008～2010年度2Q）

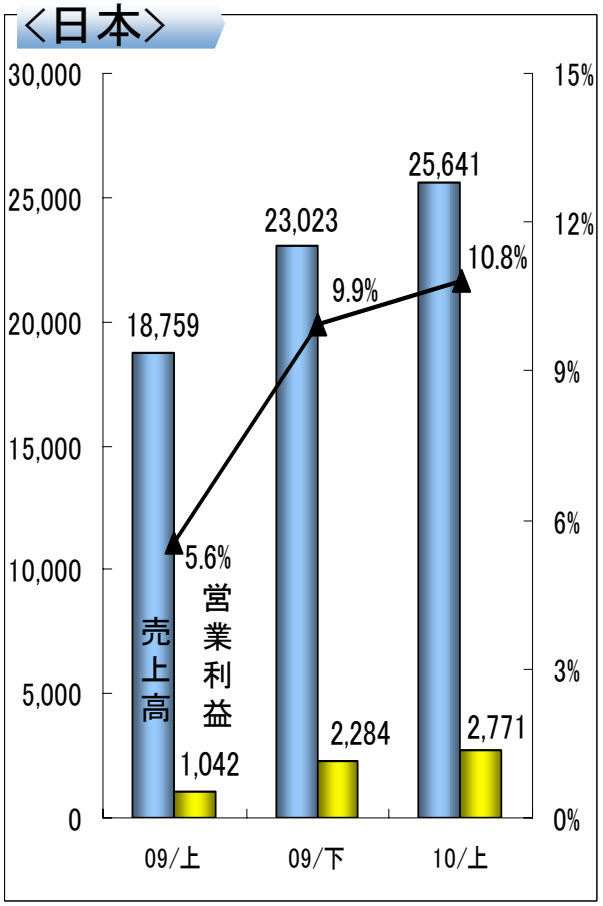
継続的な改善活動により実力値が着実に向上

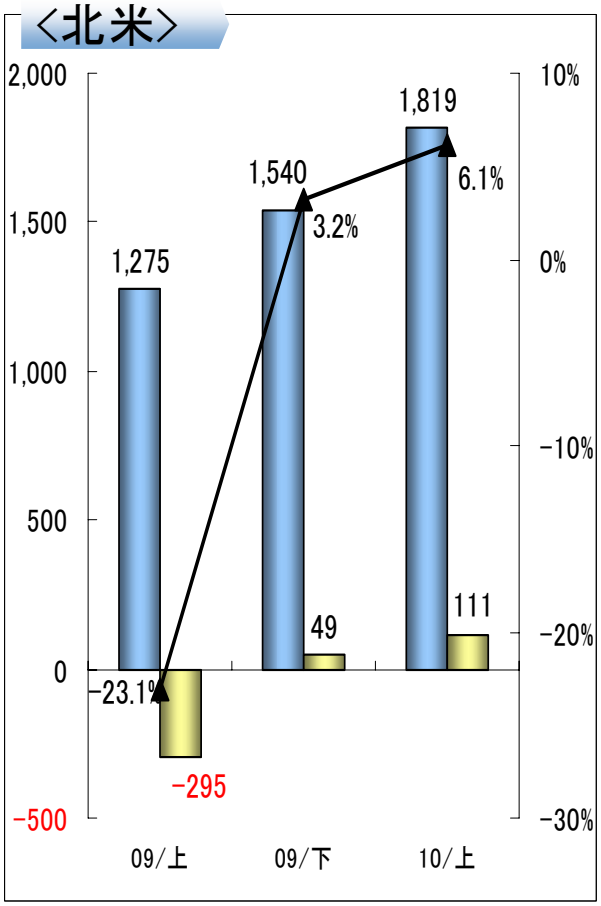


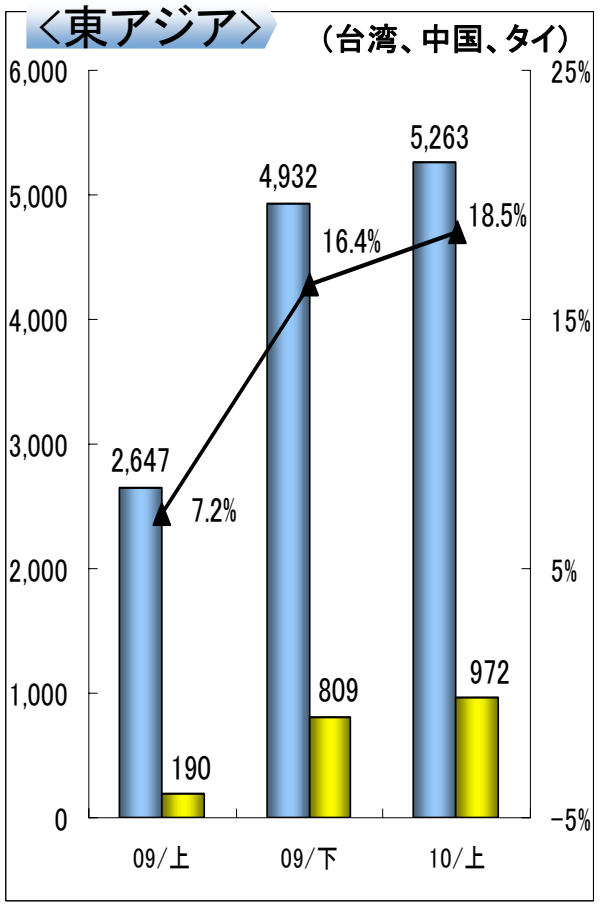
KINUGAWA

Ⅰ－4.　所在地別セグメント情報

日　　本；国内グループ内応援体制、モノ造りベンチマークのグローバル展開
北　　米；国内で実施した現場改善活動を水平展開することにより黒字化を達成
東アジア；主要得意先からの大幅な受注増、モノ造りベンチマーク活動の相乗効果
　　によりで大幅増収増益







KINUGAWA

Ⅰ－5.　キャッシュフロー改善と借入金削減

グローバル統一基準で資産管理し、余剰資金は借入金返済に充当

◇ 資産の圧縮と借入金の返済

- 10/3月末：436億円　⇒　10/9月末：444億円
- 回転期間　1.2回転/年　⇒ 1.5回転/年
- 借入金　10/3月末：154億円　⇒　10/9月末：128億円
- DEレシオ　1.3　⇒　0.9

自己資本比率の向上

27.9%（10/3末）⇒ **31.5%**（10/9末）

KINUGAWA

Ⅰ．2010年度上期決算及び通期の見通し

・上期決算の状況

・通期の見通し

Ⅱ．当社グループの取組み

Ⅲ．今後に向けて

KINUGAWA

Ⅰ－6. 2007年度からの損益推移と2010年度見通し；最高益更新見込み

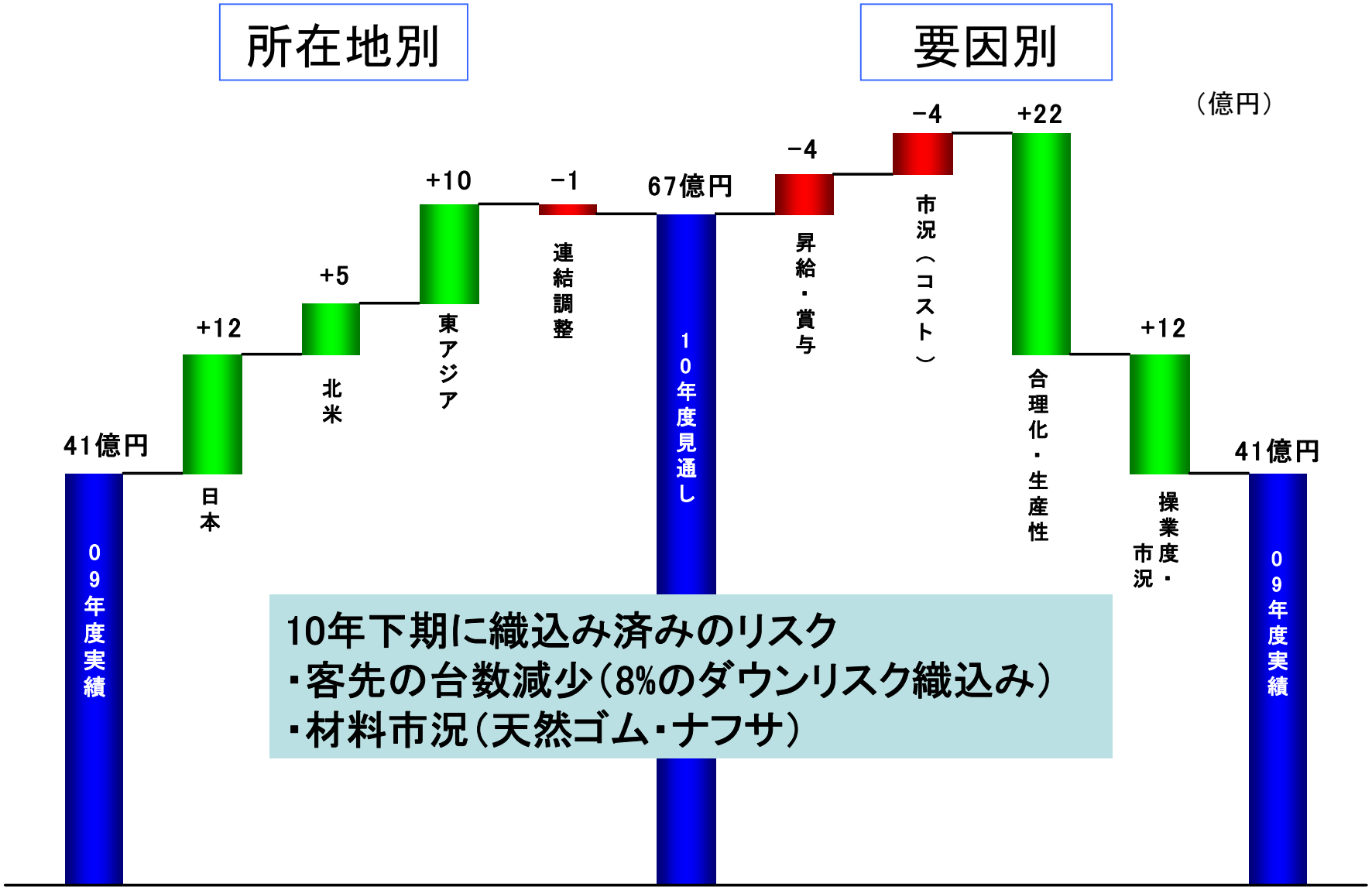
量の変化に柔軟に対応できる生産方式（後述）の進展による
下期減産ロスの極小化

（単位：億円未満切捨て）

	07年度	08年度	09年度	10年度見通し
売 上 高	653	589	521	600
営業利益	32	22	41	67
率	4.9%	3.7%	7.9%	11.2%
経常利益	31	20	43	69
率	4.7%	3.4%	8.3%	11.5%
当期純利益	4	7	29	43
総 資 産	513	416	435	440
自己資本	94	91	121	149
率	18.4%	22.0%	27.9%	33.9%
借入金残	196	182	154	110
DEレシオ	2.1	2.0	1.3	0.7

KINUGAWA

Ⅰ－7.　2010年度の見通し（営業利益増減要因）



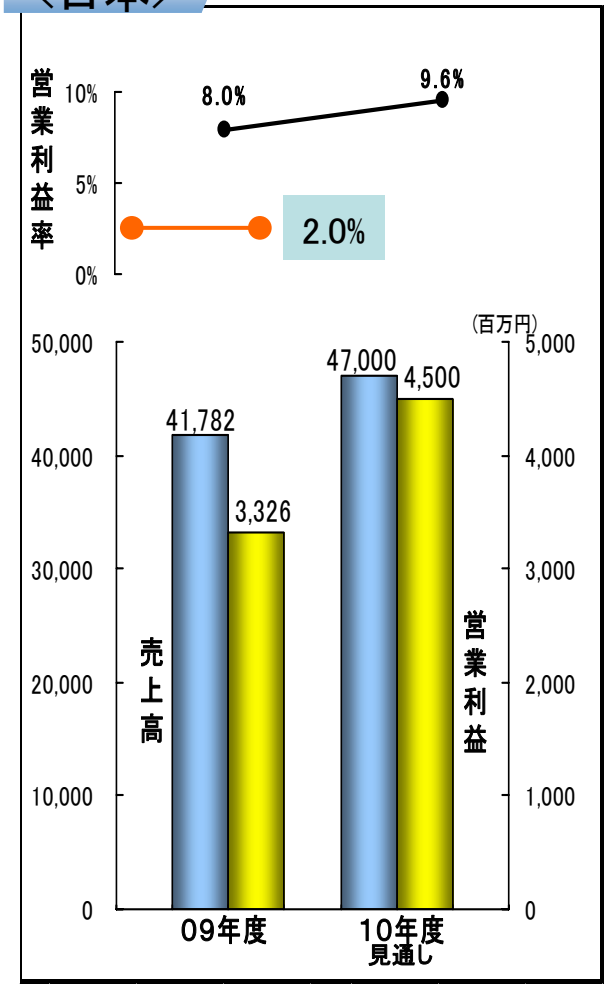
10年下期に織込み済みのリスク
・客先の台数減少（8%のダウンリスク織込み）
・材料市況（天然ゴム・ナフサ）

KINUGAWA

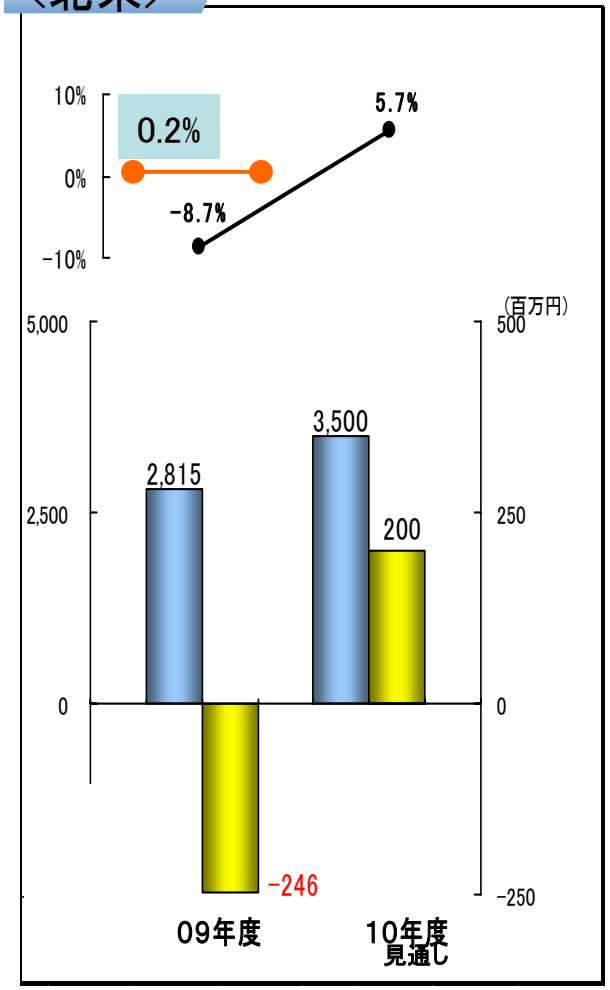
Ⅰ－8.　所在地別の状況

2010年見通しでは、全所在地で増収増益

＜日本＞

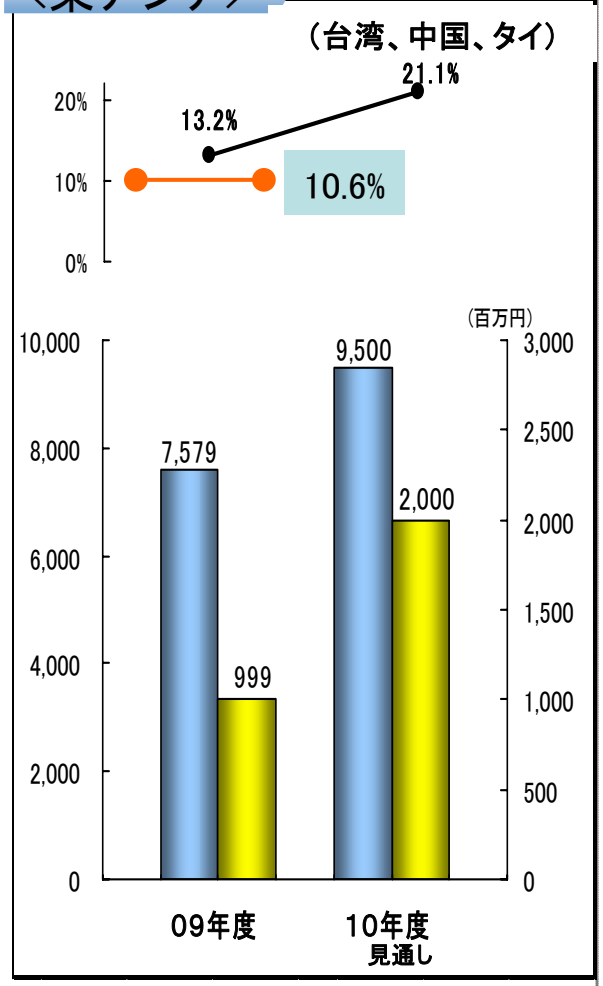


＜北米＞



＜東アジア＞

（台湾、中国、タイ）

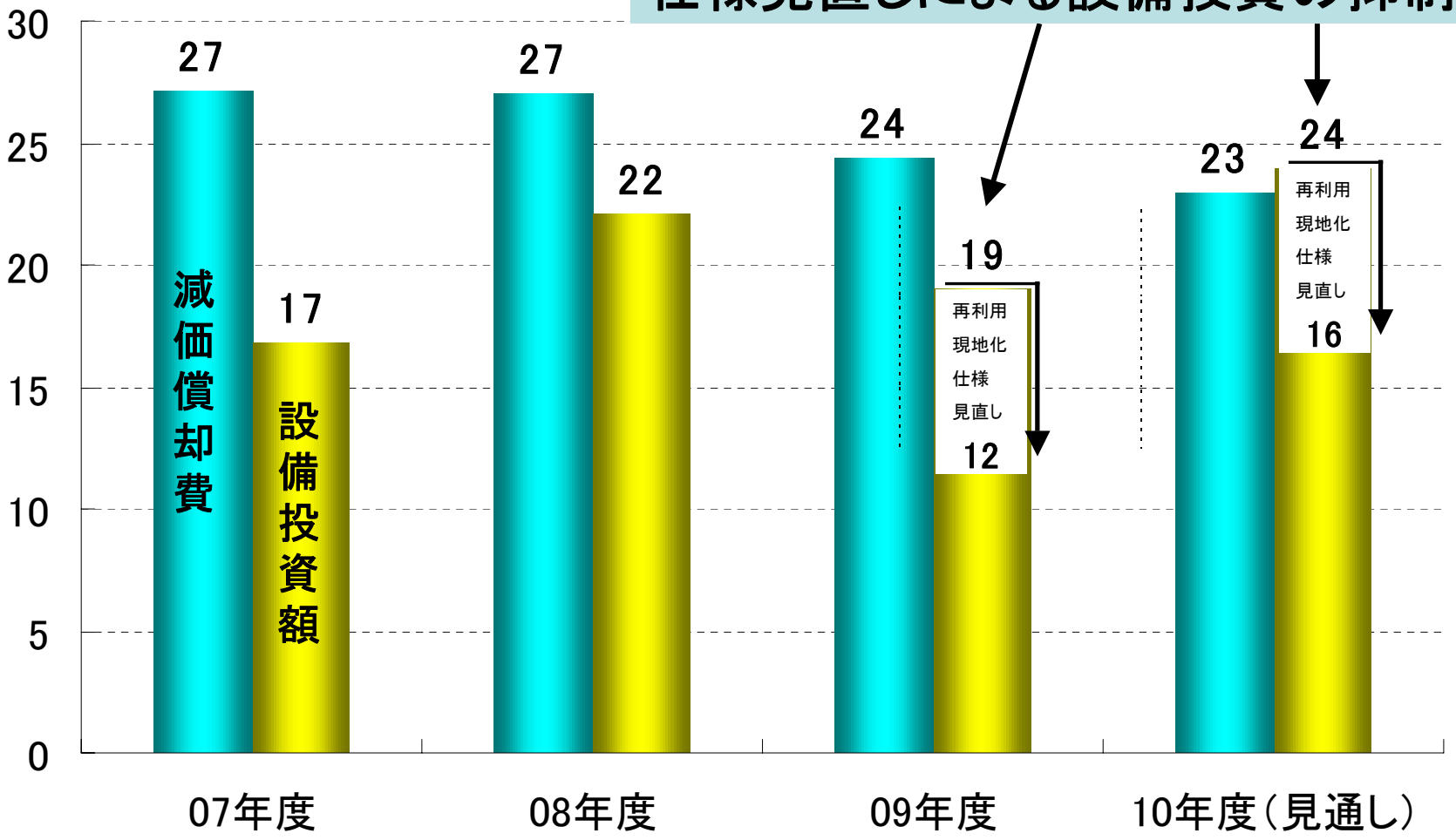


KINUGAWA

―――― ;日本自動車部品工業会　会員上場企業82社　平均

Ⅰ－9. 減価償却費・設備投資推移

現有設備再利用、LCC・現地化、
仕様見直しによる設備投資の抑制



KINUGAWA

Ⅰ．2010年度上期決算及び通期の見通し

・上期決算の状況

・通期の見通し

Ⅱ．当社グループの取組み

Ⅲ．今後に向けて

Ⅱ－1.　Kinugawa Challenge　2012活動の推進

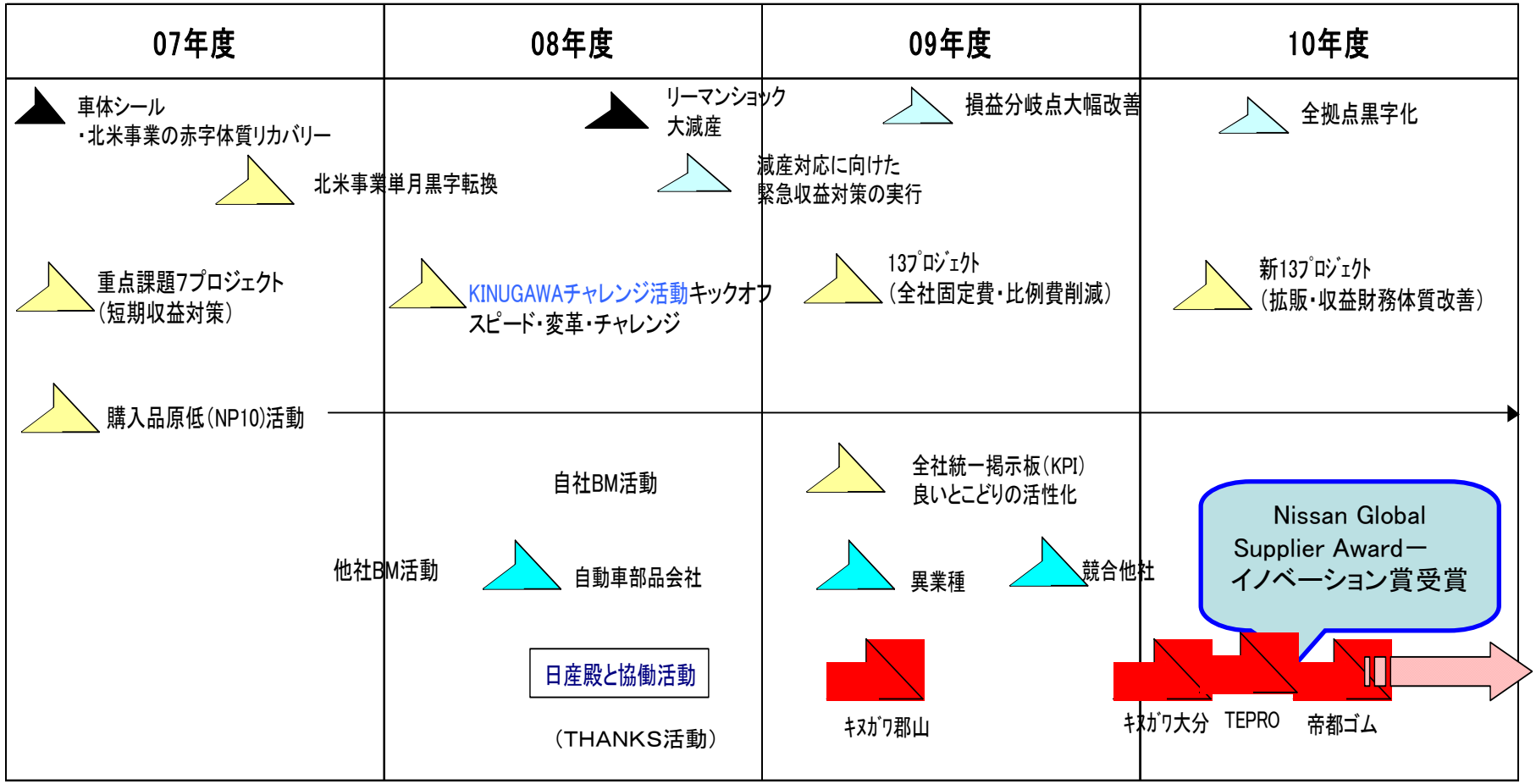
基本方針	「増収・増益」を継続できる企業体質（損益分岐点比率） 「Kinugawa Challenge　2012」　取組の継続と発展・強化
キーワード	「スピード」・「変革」・「チャレンジ」
3つの構造改革	①短期収益を良くする　⇒重点課題プロジェクト ②売上が伸ばせられる　⇒一気通貫でチームプレー ③仕事の質をよくする　⇒業務革新プロジェクト

分社経営、事業部運営、機能軸KPI、モノづくり力向上などを推進

KINUGAWA

Ⅱ－2.　Kinugawa Challenge活動の経緯

07年度以降、構造改革に着手、企業体質の改善活動を継続中



Ⅱ－3.　得意先との協働活動によるモノ造り力向上成果

2010年7月、日産自動車傘下グループサプライヤー総会にて、日産自動車殿より「Nissan Global Supplier Award－イノベーション賞」を受賞

＊日産自動車殿との協働活動を通じて「モノ造り力向上」による生産性向上の成果をあげ、2009年度の同社への商品・技術分野に貢献

Nissan Global Supplier Award
Global Innovation Award

KINUGAWA RUBBER INDUSTRIAL CO.,LTD.
Large scale of productivity improvement by reinforcing "Monozukuri" capability through the THANKS collaborative activity

This award is presented to you in appreciation of your excellent performance in technical innovation.

Thank you for your continuous efforts and outstanding contribution to NISSAN.

NISSAN MOTOR CO., LTD.

Carlos Ghosn
President
Chief Executive Officer

JULY 2010

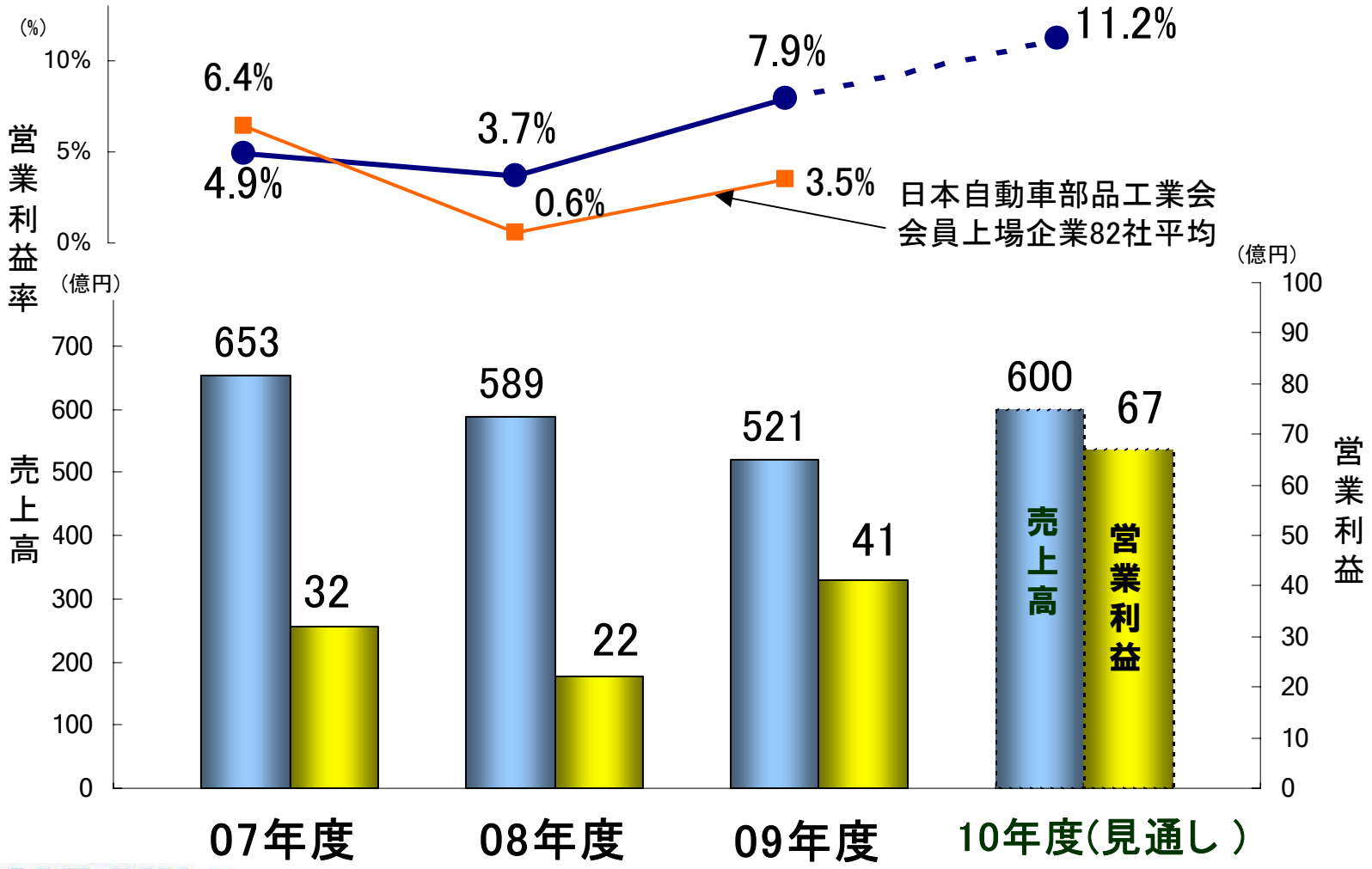
NISSAN

左）日産自動車　志賀COO殿
右）当社 社長　関山定男

KINUGAWA

Ⅱ－4.　連結業績の推移

リーマンショック後、量の変化に柔軟に対応出来る生産方式を確立し、業界平均以上の利益率を達成



KINUGAWA

Ⅱ－5.　07年度vs10年度　営業利益比較

所在地別

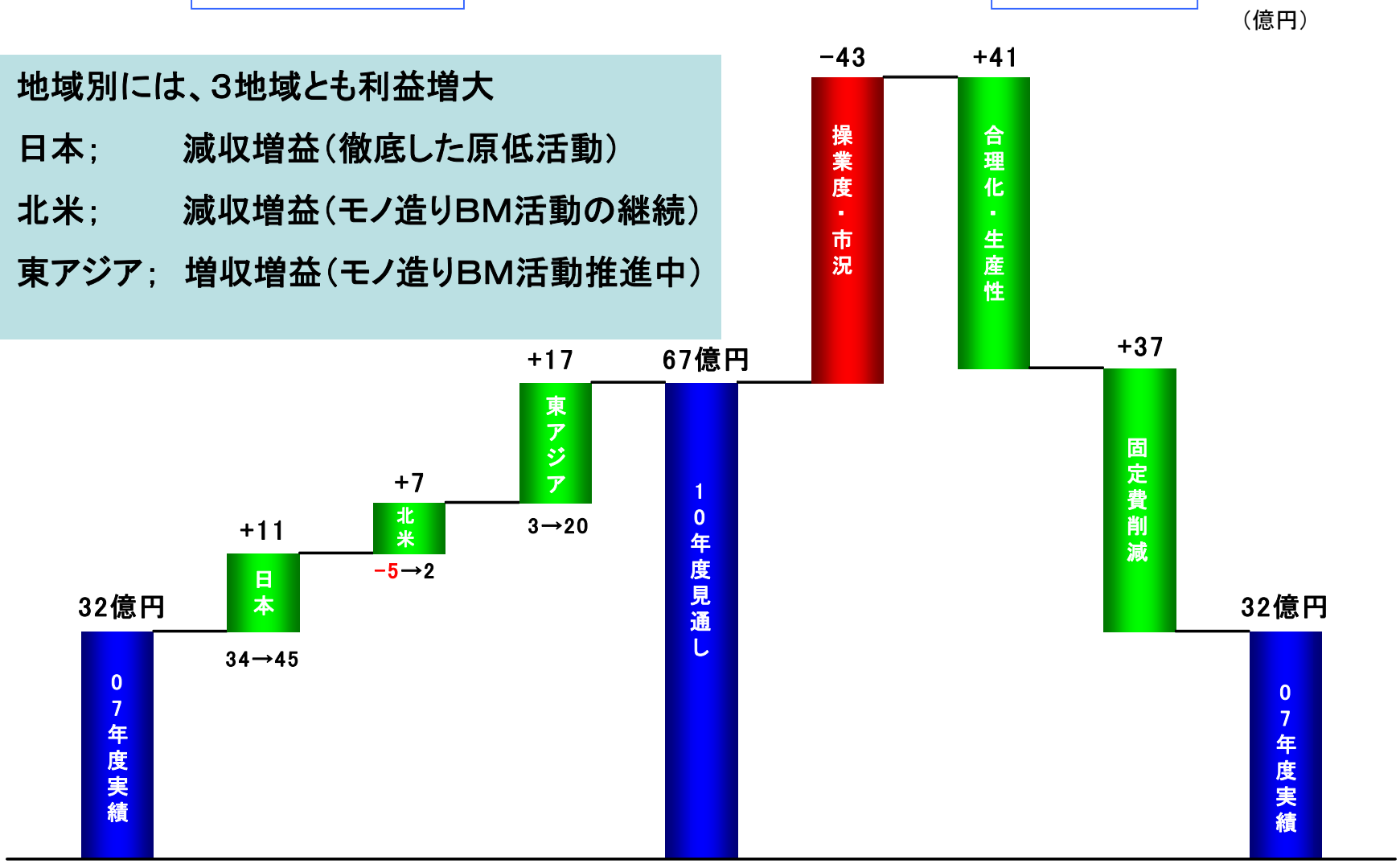
要因別

地域別には、3地域とも利益増大

日本；　減収増益（徹底した原低活動）

北米；　減収増益（モノ造りBM活動の継続）

東アジア；　増収増益（モノ造りBM活動推進中）



Ⅱ－6.　主な取組み

量の変化に柔軟に対応できる体制造り

1）セル生産方式及び生産ラインの直結化
2）徹底したロスの削減（段取りロス、歩留まり、不良低減）
3）生産リードタイムの短縮（在庫削減・構内物流改善・直納化）
4）得意先との協働活動によるトータルデリバリーコストの削減
5）人的資源の有効活用（拠点間応援）

固定費の削減

1）間接業務効率化（機能統合、大部屋化、直接員化）
2）償却費及び経費の削減

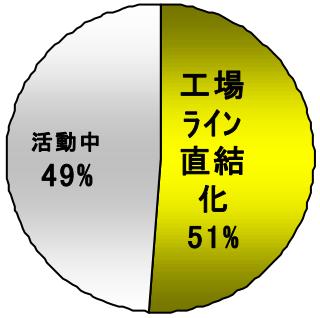
調達コストの削減（NP）活動

1）グローバル調達（原材料・設備・金型）
2）汎用化・標準品化
3）サプライヤーとの協働活動

工場ライン改善状況 【直結化・セル化】

2009年

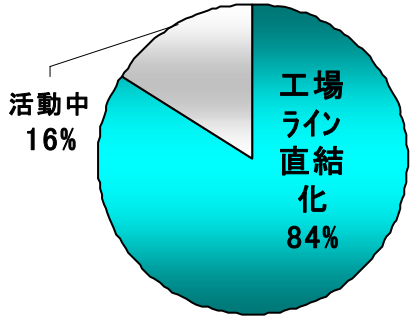
グローバル



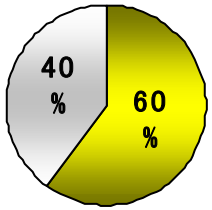
改善

2010年

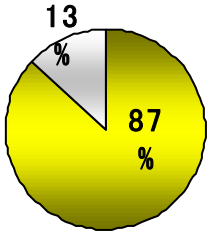
グローバル



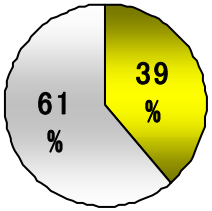
日本



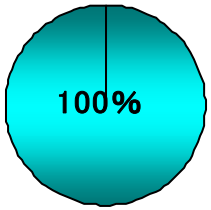
北米



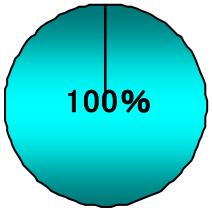
東アジア



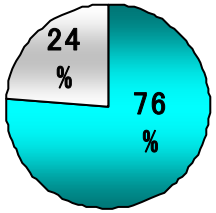
日本



北米



東アジア

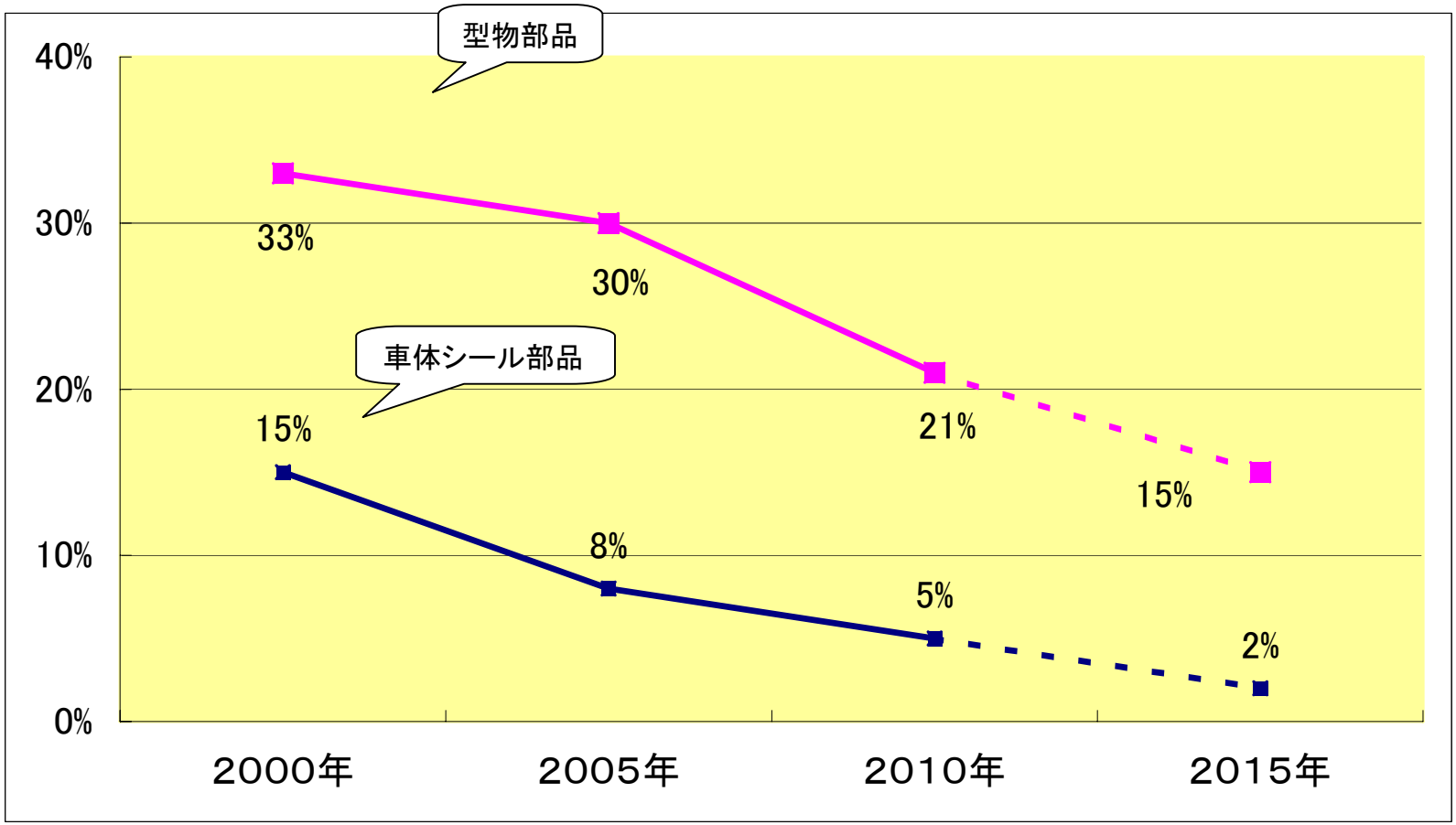


2011年度完了予定

Ⅱ－7.　主な取組み　②

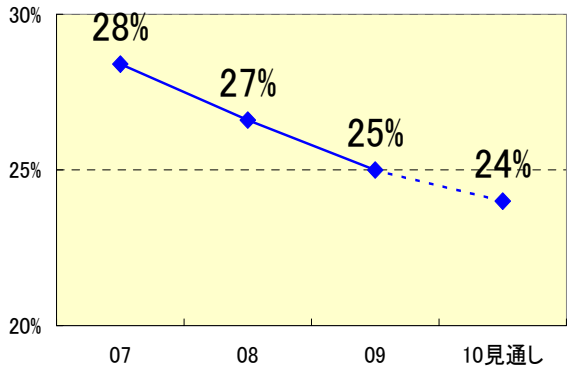
段取り改善や、金型のバリ止めなどのテクニカル改善
いち早くゴムの樹脂化を進め、最終処分量を低減

廃却率低減活動

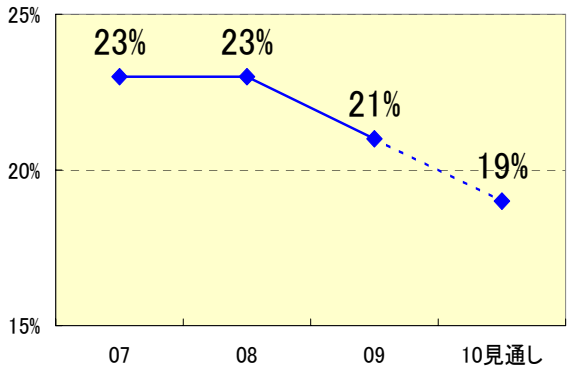


Ⅱ－8.　2007年度～2010年度 主要管理指標推移

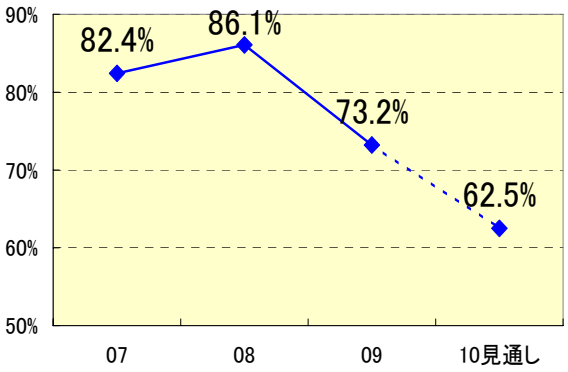
売上高労務費比率



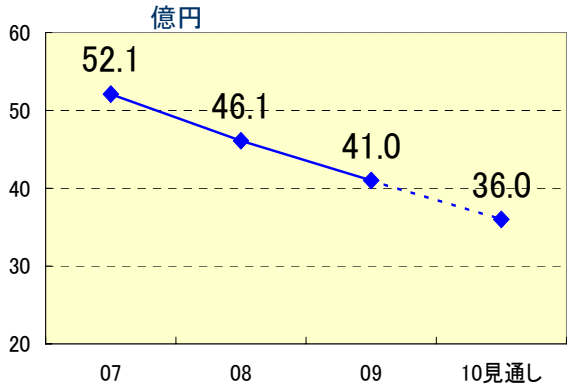
売上高固定費比率



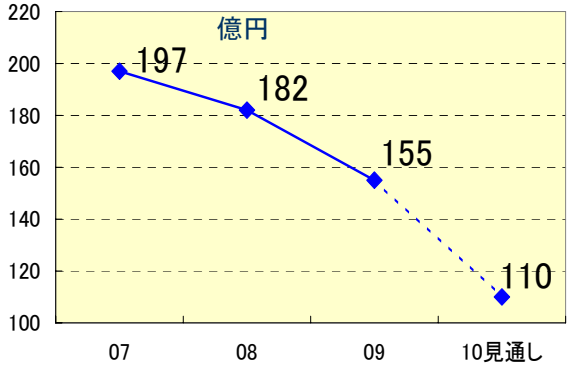
損益分岐点売上高比率



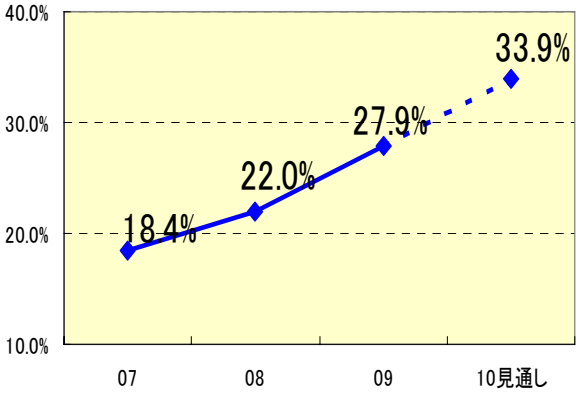
棚卸資産残高



借入金



自己資本比率



KINUGAWA

Ⅰ．2010年度上期決算及び通期の見通し

・上期決算の状況

・通期の見通し

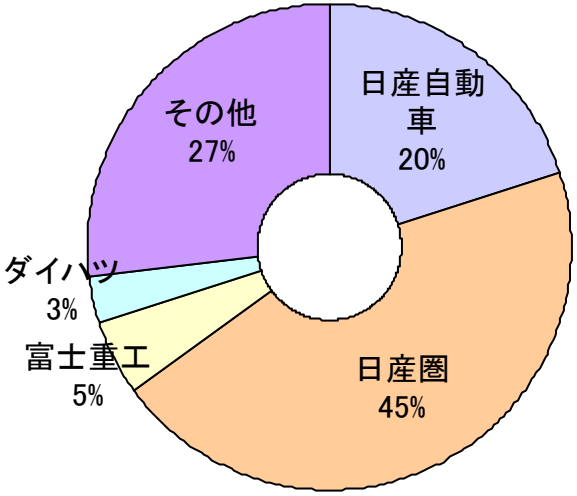
Ⅱ．当社グループの取組み

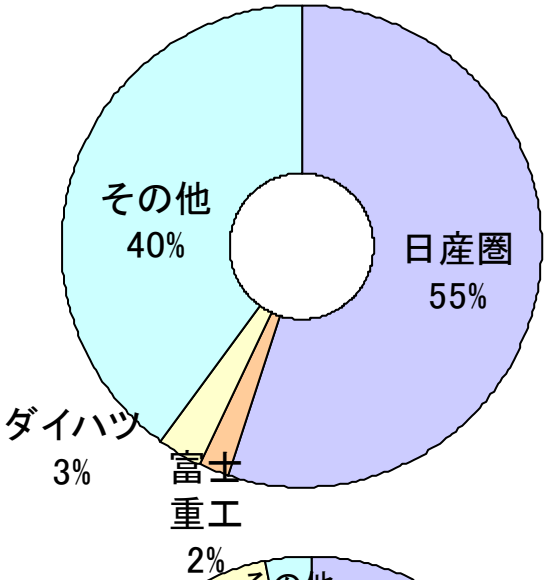
Ⅲ．今後に向けて

Ⅲ－1. 顧客別・地域別シェアの現状と目標

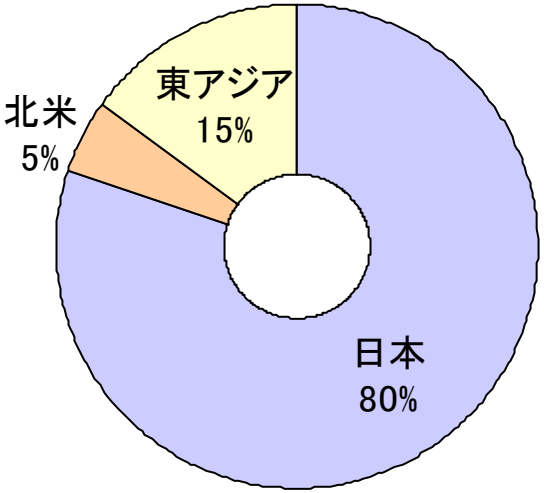
現状　　2015年目標

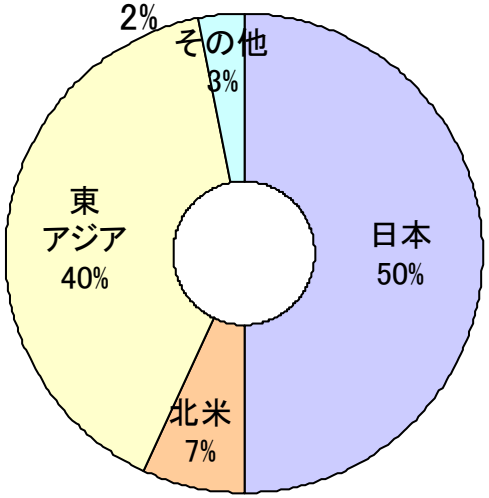
顧客別





地域別

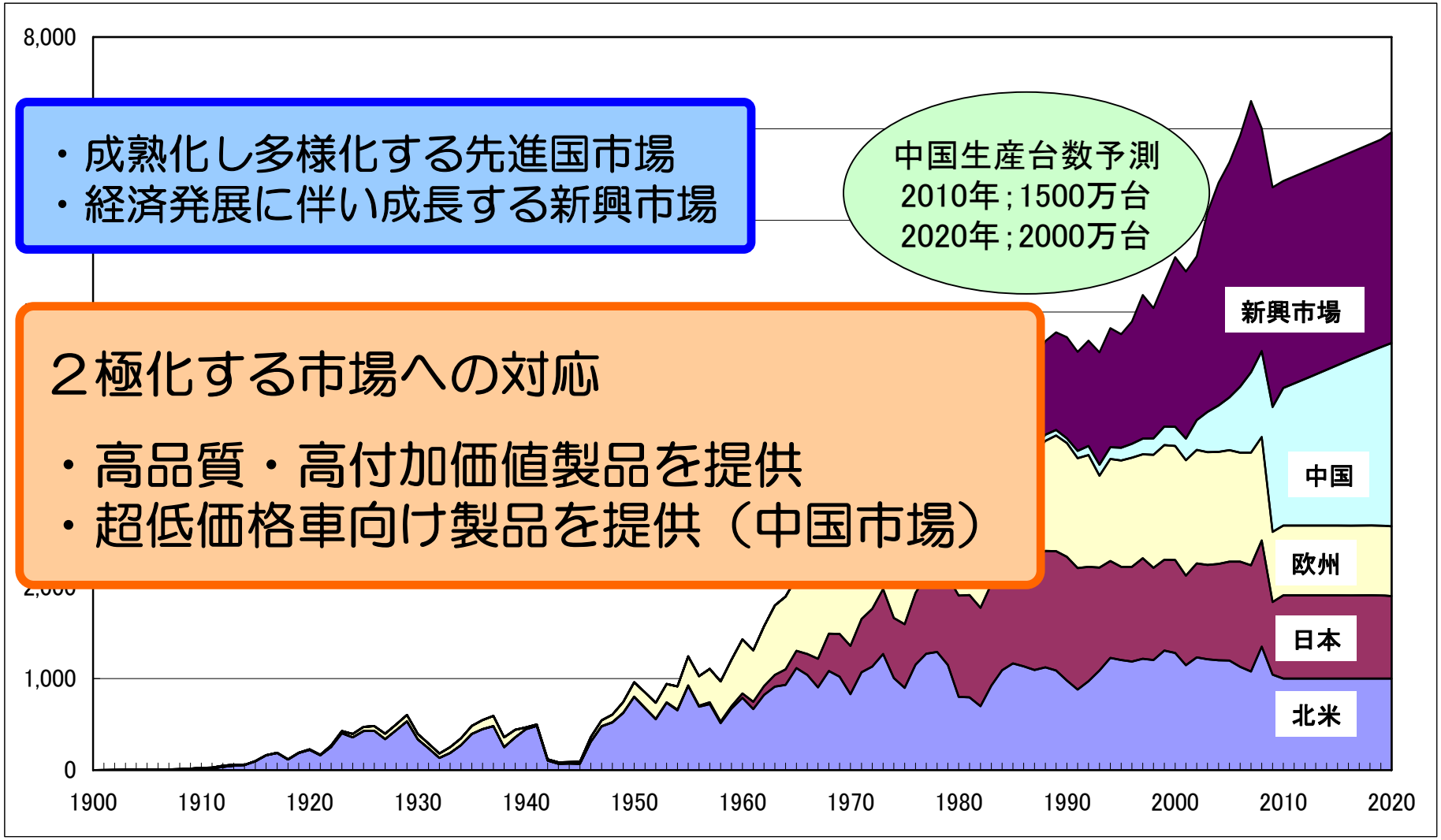




KINUGAWA

Ⅲ－2.　グローバル自動車市場の動向

世界自動車生産台数推移



・成熟化し多様化する先進国市場
・経済発展に伴い成長する新興市場

中国生産台数予測
2010年；1500万台
2020年；2000万台

２極化する市場への対応

・高品質・高付加価値製品を提供
・超低価格車向け製品を提供（中国市場）

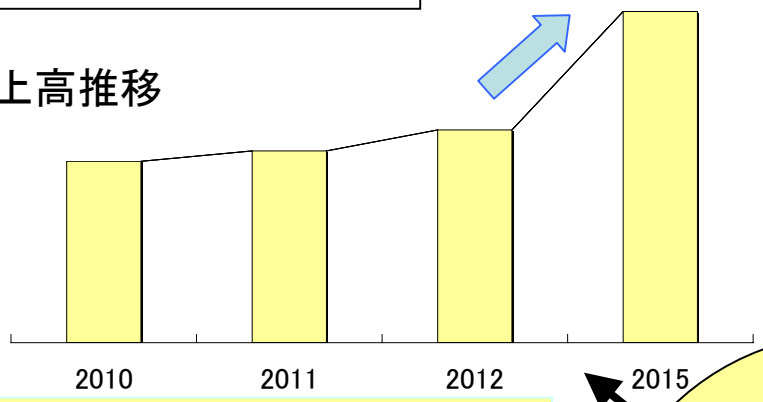
出典　MVMA World Motor Vehicle Data (1900-1972)
WARD's World Automobile Data (1973-2007)

日興コーディアル証券資料より

Ⅲ－3.　製品別拡販活動

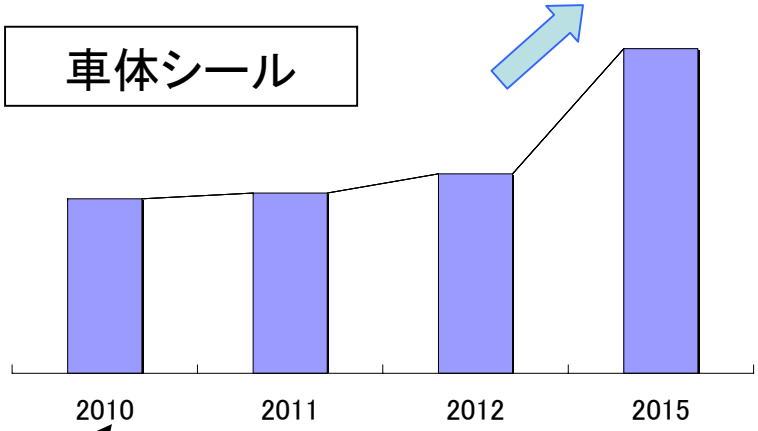
精密・エラストマー

売上高推移

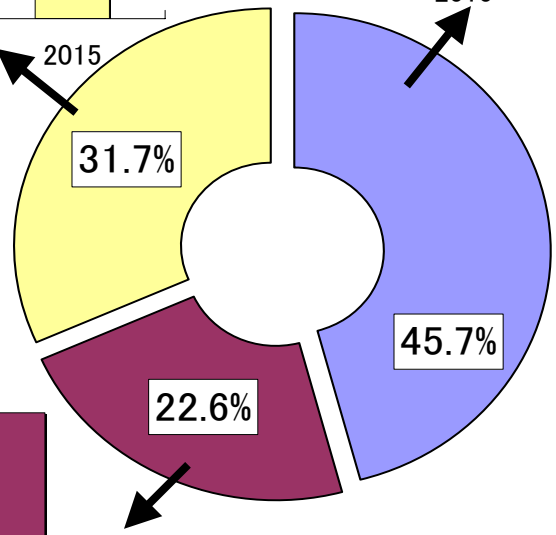


・次世代ブレーキカップの開発
・樹脂ブーツの開発
・中低圧ホースの拡販

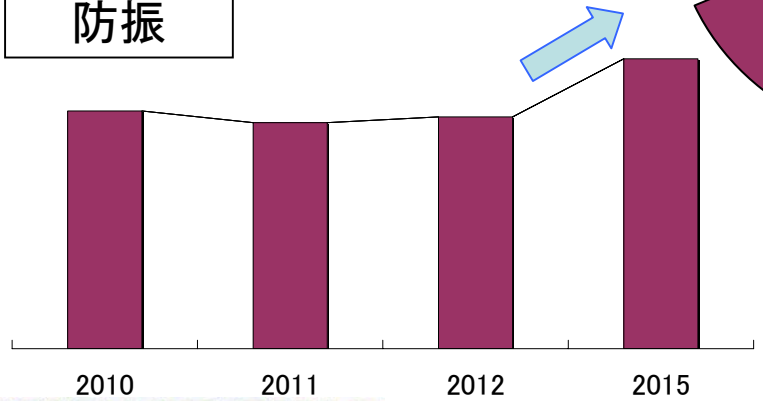
車体シール



・軽量化部品の開発
・リサイクル技術の開発



防振



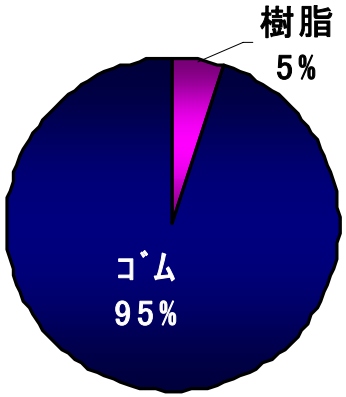
・軽量防振部品の開発
・非自動車部品への拡販

KINUGAWA

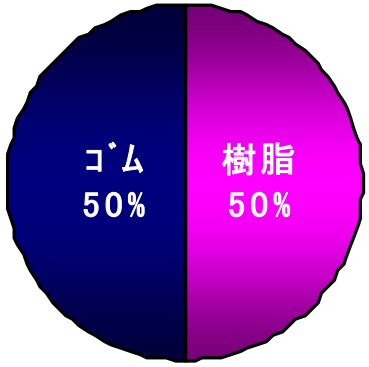
Ⅲ－4.　樹脂化の推進

樹脂化の目的
- 環境対応（CO_2削減、リサイクル性向上）
- 軽量化（燃費向上）

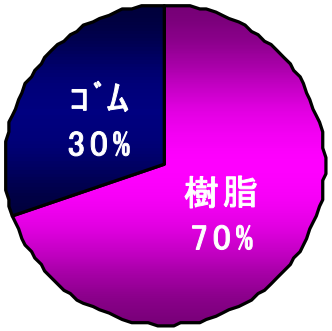
樹脂化の推進計画



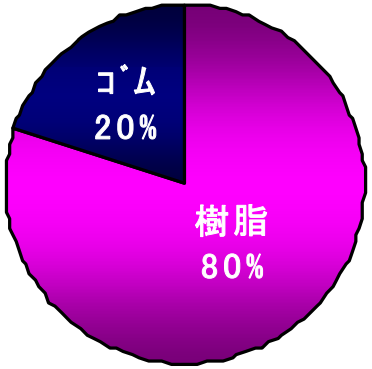
2000年樹脂化率



2005年樹脂化率



2010年樹脂化率



2015年樹脂化率

Ⅲ－5. 拠点拡大

鬼怒川(大連)模具開発有限公司設立

金型LCC拠点として中国に金型開発センターを設立

鬼怒川大連

天津

重慶市
サテライト工場

福州

広州

台湾

タイ

テネシー

キヌガワメキシコ

中国における新工場の設立検討

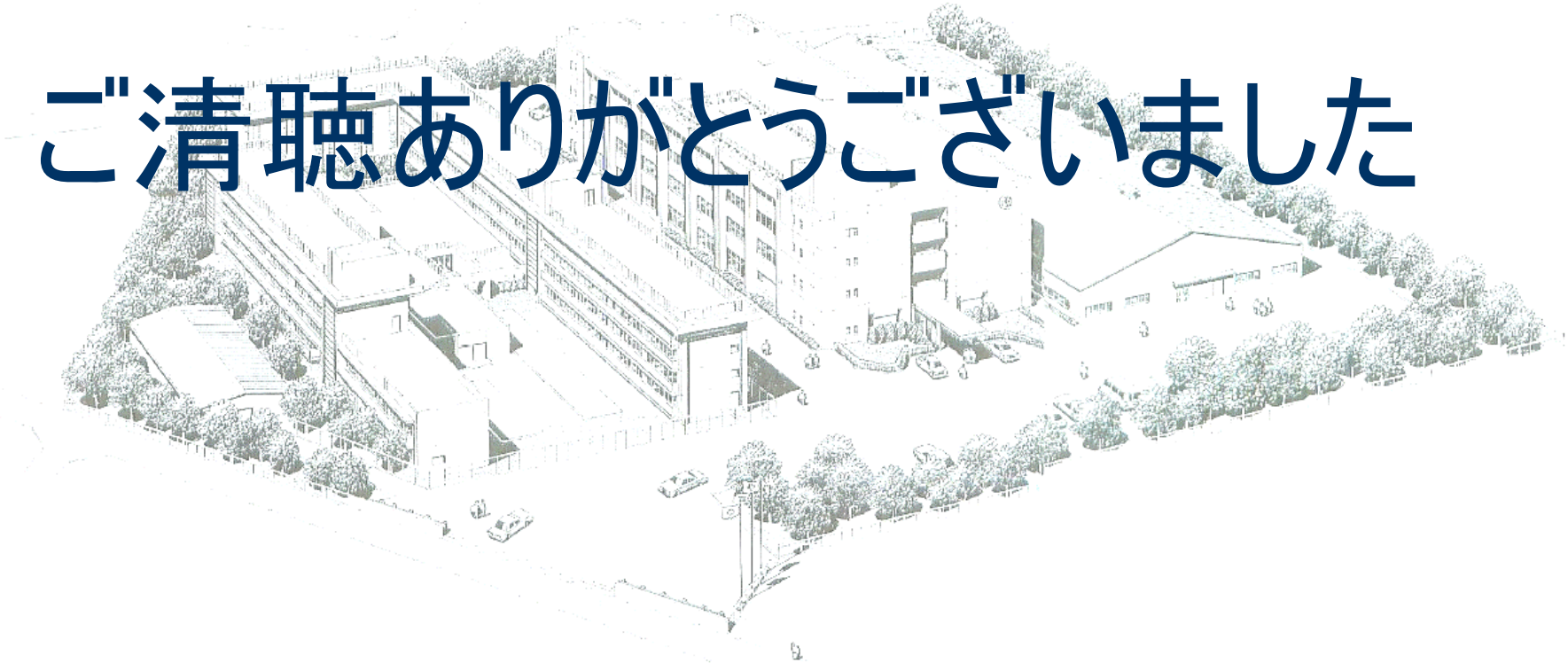
キヌガワメキシコ設立

得意先のグローバルカー戦略に
呼応してメキシコに生産拠点を設立

(2011年2月操業開始)

KINUGAWA

ご清聴ありがとうございました



鬼怒川ゴム工業株式会社

本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しております。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社　管理部

電話：043-259-3111（代表）

E-mail：kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

URL：http://www.kinugawa-rubber.co.jp/index.html

《IR情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/